

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成27(2015)年
11月号

通巻 543号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成27年11月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷製
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



拝殿正面左の紅葉

あじさい邑 矢追房子さん撮影

法主矢追日聖の遺稿より

大倭大本宮伝承の紀 (二)

編集部

奈良時代の瑞光

今回発見された法主様の御遺稿には聖武天皇・光明皇后の時代に関する資料が多いのですが、それらをより深く汲みとるために、再び『やわらぎの黙示』の法主様の文章を引用させていただきます。

《……たまたまここが(※編集部注 大倭大本宮のこと)、光明皇后が小さいとき体が弱いというので養生された所だった。自分が皇后になって大仏さんを造ったりしたとき、集めた人達が国にも帰れず行き倒れになったり、帰化人のもってきた癩病や天然痘で倒れる人も奈良には沢山いた。それで仏さんを造るのにこれだけの犠牲が出たんだからといって、皇后が施薬院、悲田院で、まあいわば奉仕したわけだ。

聖武天皇というのは聖の字がつくぐらいの人やけど、あの人のやった政治は光明皇后のここでの靈示によって殆ど動かされていた。だから奈良朝の政治文化は殆どここが中心になっていた。全国に国分寺、国分尼寺を造って、仏教で国を治めるのが

理想だったけれども、だんだん坊主が力を持ち出して来て、後には孝謙天皇（女帝）をしりぞけるところまで来た。聖武天皇は「我は三宝の奴とやらん」とまでいわれたくらいだし、殆ど光明皇后の指図通りにやったわけだけれど、それは自分がスメラミコトであることを忘れてしまわれたわけだ。そのことを聖武天皇は霊界でなげかれています。

私がここへ出てくるというのも、どうも聖武天皇のはからいもあるらしい。あの時代から約一二五〇年後の今、矢追日聖に宗教をやり直して欲しいと、霊界の聖武天皇から頼まれとるんですね。それでここが大倭教の根拠地になるといふことと、古代大倭の中心であった（注①）ということは何というか、言うに言われぬ事情があるんです。甚深微妙の法^{じんじんみょうぼう}とでも言わなきゃならんようなものが……。《『やわらぎの黙示』95～96頁》

この「言うに言われぬ事情」や「甚深微妙の法」ということが、今回の遺稿ではさらに詳しく記されています。（※4頁写真参照）

昭和二五年八月二十八日、立教開宣、東光大祭の佳日

午前中は大雨、午后四時過ぎから雨上る。日妙師参詣さる。昨日の約束で今日は大本宮の因縁の開顕さる日である。

大倭教、大本宮の神域――

須加谷寺址。別名、登美寺とも言ふ。

聖武天皇御創建。

この三日後の八月三十一日、前回に紹介した長曾根日子命の住居についての靈示に続いて、聖武天皇・光明皇后から法主様に至るまでの大倭大本宮に関する因縁が一気に語られます。

昭和二五年八月三十一日開顕

藤原不比等（注②）の女^{むすめ}、安宿媛（光明皇后）（注③）は生来神通之力を有し、顕

注① 前号で述べられている、この地が長曾根日子命の居住地であったということも含めての記述であろう。

注② 659年～720年。藤原鎌足の次男。鎌足の政治的遺産を継承。

注③ 701年～760年。聖武天皇の皇后。名はあすかべひめ、不比等の三女。皇族以外からはじめて立后。

注④ 法主様は、光明皇后におけるこのような記述はおそらく他ではしておられない。

注⑤ 歴史的事実には、皇后は718年に阿倍内親王（後の孝謙天皇）を出産されており、727年には皇子（基王）を出産するも、1年後にこの皇子を亡くされている。あるいはこの9年間にこの記述の如き事情があったのかも知れない。

注⑥ 国分尼寺の総てが法華滅罪之寺と呼ばれ、龍女成仏の話が見える法華経を主たる経典としている。

幽両界によく通じられて居た(注④)。然る所、皇后出産すれば間もなく薨(こ)すること数回に及んだので(注⑤)、その不可思議、因縁の浅からんことを知り給ひ、その供養菩提のため、又その因縁の開頭のため一心に神佛に御祈請をこめられた。

時に佛、皇后に告げて宣く、「各国に寺院(国分寺)を建立して、鎮護国家、女人滅罪(注⑥)の祈りをなせ」と。

皇后直にこのことを天皇に告げれば、天皇、大倭の中心からと靈感によって示されたので、先づ大倭神宮に御親拝になった。時に天皇、大倭の和神に誓願を立て玉ひて宣く(注⑦)「何時の世までも、未来永劫まで吾が国家の鎮護とならせ給へ」と。この時、北東の方、菅谷の方(注⑧)より瑞光虚空(すいこうくうくう)に出現す。これ七月十五日である。天皇、光の方向に寺院建立の地を求め給ひし時、現菅谷の地に於て靈示ありたるによりて、この地に先づ寺院を建立し給ふ。これ須加谷登美寺と称すが、これ天平十三年九月頃である。(注⑨)

皇后は亡き幼児の菩提のため百萬塔(注⑩)の供養や又、施薬院もここに設置し、或は各地にも設けられ薬湯供養もせられたのである。又特に須加谷寺に於て千人薬湯供養も行はれて、その冥福を祈り玉ふたのである。これより全国に国分寺、国分尼寺を建立せられた。

世は降(ふ)って高倉天皇御代、治承元年(注⑪)平清盛によって須加谷寺は灰燼に帰し、以後再建することなく今日に至る。

登美は各地に、鳥見、外山、跡見などによって、後、中の登美寺、藤木ノ登美寺との別名も生じていると。

現今の齋庭の所は舍利堂にして周囲に建物もあり、又廣く東方西方にも堂宇ありて、この地一帯の寺院を総じて須加谷寺と称し、又地名にちなみて登美寺とも言ったのである。

斯うして因縁のある土地であったので、廢寺となってより以来この地に居を構へるものもあつたが、聖武天皇の意志を継ぐものではなかつたので永続せず現今山林田畑と化した。だが仮にこの土地を耕作すれば必ず崇あるので耕作をきらひ、フジ田と言ふようになった。

幸に昭和の御代、聖徳法主日聖出現あり、日聖は今世大倭教を以て世界ヲ平和に建直す一大事因縁のある身であり、今日迄大倭神宮に仕へて滅私精魂を打込み身命

注⑦

これより聖武天皇は仏教国家と為すが、古代より連綿と続く和神(大倭の神々)を排する事なく、神仏共に貴ぶとする聖徳太子以来の神仏習合の国家的起点を見る思いがする。

注⑧

現大倭紫陽花邑の辺り。

注⑨

この年(741年)2月、諸国の国分寺、国分尼寺の建立の詔が出ている。2年後(天平15年)10月には大仏造立の発願がある。

注⑩

100万個の木製三重小塔。塔身と相輪との2つから成り、塔身内部には陀羅尼(サンスクリット語の原文を漢字で音写した仏教の呪文)を納める。総高は標準で21cmぐらゐ。

注⑪

治承元年は1177年8月4日からの4ヶ月間を指す。2ヶ月前の6月に平氏打倒の鹿ヶ谷の陰謀の発覚があり、藤原氏の数名も肅清されているが、それと何らかの関係があるのだろうか。

注⑫

ここで生母さんを通じて表された靈示の内容のような事を、法主様自らはここまでストリートに語られることがなかつた。その重要性をどう理解すればいいのだろうか。理解の域を越えたものようであるが、「信じず疑わず」で、今一度心静かに魂に響く「大倭紫陽花邑」の原点に耳を澄まし向きあいたいものである。

を捧げて御神慮の発揚に精進せるによって、大自然の大祖神（太加天腹大神）が聖武天皇のかつての誓願、又聖武天皇の御聖慮を継承させるに日聖をおいて他なしとして、神宮より日聖を須加谷に移させたのであって、昭和二十一年八月十二日（旧七月十五日）の瑞光は、かつて聖武天皇大倭神宮に於て大誓願を立てられた時の瑞光と同じであり、また同じ七月十五日であったのである。（注¹²）

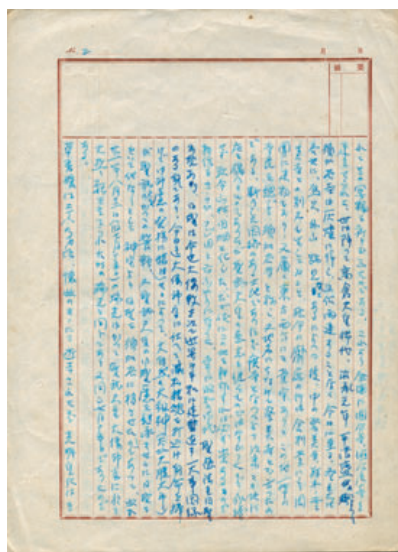
これ以上解説の必要がないほど明確に、聖武天皇や光明皇后と大倭大本宮の地との深い縁についての靈示が記されています。聖武天皇に示された瑞光と昭和の御代に法主様に顕われた東方の光との密接なつながりが明言されていることには驚かされるというより、私たちに投げかけられた大きな問いかけであると感じます。

この法主様の御遺稿に接すると、天皇という存在と法主様の使命との間には微妙で複雑な関係があるように感じられます。このことについては、これを読んで下さった皆様、それぞれに受けとり熟考して下さいと思います。

須加谷寺に関しては、さらに詳しく次号で触れていきますが、最後に法主様が倭の子供たちに須加谷寺について平易に語った記事があるので引用しておきます。冒頭で引用した文章と重複する部分が多いのですが、未来を託すかのように子供たちに語る法主様の肉声を感じられるので、あえて紹介することにいたしました。（一部省略……）

《ここは須加谷寺というお寺の跡やねん。昔の、その須加谷寺という、ここにあったお寺にはネ。光明皇后さんいうてな、奈良の大仏さんこしらえはった人（が居たん）や、女の人。聖武天皇さんが主人で、そして光明皇后さんというのが嫁さんやねん。……そのうしろには、藤原氏という、エライ団体がいよるねん。……その人がうしろにおるさかいそこから皇后さんにならばってんな。……天皇陛下の身内からやないと、皇后さんになられへんかった、あの時代には。ところが……、皇族とちがうのにそこから皇后さん出したんが、光明皇后さんや。今現在でも今の皇后さんのことも一応やかましくいうたけどな。けど、ずっと昔に例があるねん。光明皇后さんが、そうやねん。あの人が一番先に普通の民間から皇室に入ってはるねん。その光明皇后さんという人が、この場所、ここに居てはったことがある。ここに居って、その時お寺もここにあってん。》

『おおやまと』平成7年1月号より（続く）



（裏）



（表）

平成27年10月10～12日「賑栄い塾」報告

母なる森のいのちの水

熊本県水俣市 高倉敦子

そもそも賑栄い塾って何？と聞かれるとうまく説明できない。年に1回日本のどこかで、2泊3日の集いが今年で20回目。とうとう最終回を迎え再び秩父でのご指名が来た。日本百観音霊場の結願寺が何故か秩父になっているが、どこか似ているような似てないような。

日程を決め、会場を奥秩父大滝中津川のごまどり荘に決めた。「宿泊50人以上はいくと思えます」と電話で伝えると、「それなら貸切ですね」と返ってくる。せっかく秩父だし最後だし、自然の中を歩きたいと、プログラムはトレッキングを盛り込み、初日の恒例の自己紹介を大幅に短縮し、「自己紹介文」を冊子にまとめて渡そうということになった。参加者は男性31名、女性31名と珍しく同数だ。あとは天気を祈るだけという時に、宮古島に住む齋藤さんが「秩父の源流水に琉球のお水を繋ぎたい」と参加を決めて下さる。地下の見えないところで同時に何かが動いていた。

10月10日の午後2時半、定刻通り西武秩父駅からこれまで貸切の西武バスは出発。再会を喜ぶ顔と顔、まるで遠足みたいで嬉しくなる。晴れて、荒川を上流に遡る日がやって来た。目の前には武甲山。前回の賑栄い塾で上映した「あらかわ」に出て来るダムに沈んだ村々を、今度は実際に通過して中津川に入る。胸は痛いが見てもらいたい。洞窟のそばを通ると思わずオオカミの話がしたくなる。紅葉が少しずつ始まり、急流を見下ろし走るのはなんて気持ちがいいことか。実は私の父は西武バスの運転士だった。その頃中学生だった私

は、夏休みに、文通をしていた女子生徒の家(営林署の社宅)に泊りに行ったことがある。たまたま父の運転だった。狭いガタガタ道に揺られながら、突然バスは川に下りていき、水の上をゆつくり渡りまた反対側を上っていくので驚いた。とても大事な道だった。林業が盛んで活気にあふれ、川で遊ぶ子どもたちの声が聞こえていた時代の話。父をカッコイイと思った記憶が蘇り、バス到着。

夕食後、シンポジウム「賑栄い塾の今、それぞれの源流」として阿木幸男さん、野本三吉さん、岸田哲さんに思いを語っていただいた。さすがに20回の重みと言葉がしみじみと入ってくる。出口三平さんが「王仁三郎がこれからは武甲山が動くと言っていた」のひとことにとぎっ。思わず心の中で拍手を打つ。

11日、天気は曇りのち雨らしい。降る前にミツシオンを終えようと、早朝、齋藤さんと湧き水を探して歩けど、それらしいところが出てこない。どうしようかと思った途端に人が現れ、言われた通り道を戻り、橋を渡り川に沿って行くと、なんと「龍神水」と書かれた看板がある。導かれるとはこのことか。こんこんと透明な水が湧いて川へと。太古の水。そこへ彼女が持ってきたお水を注ぎ、そこからお水をまたいただいて、役目を無事終えた。お水の口がふたつあり、これは陰陽で沖繩と同じだと齋藤さんが言う。まさに沖繩と秩父がつながる瞬間をここで迎えることになるなんて、思ってもみないことだった。

雨がじゃんじゃん降りはじめ、予定変更。午前と午後をすっきり入れ替え、午前中にフリートーク。思ったことをそれぞれ声に出し、聞いてもらった。ここでは書ききれない、沢山の悩みや夢や、言葉にできない思いがこの森の中に集まっていた。ひとりひとりの人生の集積。秩父が抱える沢

山の問題は、困民党のことなどを交えて市議の清野和彦さんが語ってくれた。お昼の用意が整う頃にはすっかり雨は上がり、天気良好文句なし。

午後はそれぞれが選択したコースに別れて原生林の桂の古木まで歩いたり、近くの森で胡桃を拾ったり、川や森でゆっくり遊んで帰り入浴をすませると、ステージの準備が見事に進んでいた。

大きな壺に周辺の草花が彩られ、おまつりのノリになっていく。齋藤さんのガンクドラムの倍音と、福岡からキーボードを持参した今井てつさんの即興演奏が響きあう。ギターを持って歌ってくれた京都の阿部ひろえさんは力強く、おっぺのきんちゃんのエネルギーも炸裂。最後のステージは娘のはるちゃんを寝かしつけた花子Baby, sの照美ちゃんとまこりん。秩父が好きだったBOOちゃんも「見えないけれどいるんだよ」と言って、この輪の中で一緒に喜んで踊っていた。

3日目の朝を迎え、全体会で確認しあったのは「これからは小さい賑栄い塾を、各々の場で」だったと思う。永坂あづみさんが「白扇の」という舞を、これまでの感謝を込めて奉納してくれた。きつともう始まっているのだった。いよいよ自分の中から生まれ、動き出す何か。

最後になって、「ごまどり荘」が営林署の社宅跡地に建てられたと知り驚いたが、再び私たちが、このいのちの源流で出会うために用意されていたことの数々を思うと、嬉しくて涙がこぼれる。

翌日早速に連絡が来て、大事に持ち帰られた秩父の龍神水を、今度は各自がご縁の所に繋いでくださるという。それは生駒山の八大竜王様だったり、千葉県船橋市の御瀧神社の泉だつたりという思いがけない流れとなり、私は諏訪へと繋ぎます。温かく包まれる、不思議な賑栄い塾・秩父でした。全てにありがとうございます。またの日を。

新こころとからだシリーズ (18)

元気の氣に導かれて

神奈川県横浜市 高杉 葵

夫、高杉一空が平成26年3月4日、突然に逝く。以来私は体が不調になり、食事を摂ると、胃、みぞおち、胸が煮えたぎるように焼け、一日の大半を一年以上苦しみました。周りは病院に行くようにと私を責め、私は耳にフタをしたまま苦しみ、体重は10キロ以上落ちる。みぞおちは固くなり、触っただけでひどい鈍痛、野口整体では、みぞおちが固くなると死期が近いという。もう死ぬんだなあと思いました。

友人が頻繁に来て、温灸、お灸、愉氣(手当て)、整体をしてくれました。でも楽になるのはほんの束の間。ある時友人の一人が、「葵さんの体は弱っているけど触るととても生命力を感じる」と言う。それが心にひっかかりました。

「死ぬのはいいが、死ぬまでこんな苦しみを苦しむのは……どうにかしたい!」。ついに漢方薬局の扉を開け金龍澤先生に出会います。先生は私の顔を見るや、「治る! 治る! 絶対に治る!」体は子供の頃から自分の言葉を一番聞いている。言葉は体を病気にもし健康にもする。体は言葉に従順でよくいうことをきくんだから。私は大丈夫! 許されている! 私はよく頑張っている」と声を出して言いなさい。目が覚めたら生きていることにありがとう、目が見えたら、耳が聞こえたら、ありがとう、五感のひとつひとつにありがとうを声に出して言いなさい。大丈夫! 治る! 治る!。先生の熱さにたじたとって漢方薬を続けよう、声に出して言ってみよう! 私は決心しました。

3カ月程続けた今年の6月頃から体が少し楽になる時があり夫が眠る大倭の共同墓地にお参りに行こうと思いました。

その前にお腹の有様が知りたくて友人の信頼している鍼灸師、金谷容見さんに診てもらおう。「下腹が冷えきってます。十二指腸が細くなってる。これじゃ食物は流れないわね! 胃の噴門弁も鈍く働きが悪くなってる。これは死ぬ体ですよ!」。

灸と鍼の後、声に出して言わされる。「私は生きてまだやりたいことがあります。あなた(夫)はそちらで頑張ってください」と。言い終わると金谷さんはお腹に触り微笑む、「温かくなりましたよ。弾力がつきましたよ」。

6月23日には大倭に行くことができ、7月半ばには苦しみがウソのようになくなりました。あの痛み、苦しみが生きたい命と死のうとする体の闘いだっただけではないか。夫は66歳で逝ったが寸前まで明るかった。夫は寿命を全うしたのだ。ようやく私は夫の死を心から許せました。夫にありがとうが言えました。

整体師の夫は私に愉氣をしてくれました。夫の愉氣は体の芯に届き、こわばりがほぐれ、体は軽くなる。新体道の「わかめ体操、光と戯れる」を使って愉氣をしていると夫は言っていました。

私は6歳の頃、肺結核になり長欠児童になりました。パス、ストマイの投与で親には心労とお金の苦勞をかけ通しで、虚弱なままに成人。風邪をひけば肺炎をくり返しました。自分に嫌気がさし、健康になりたいと、ヨガ、野口整体、野口体操、気功、瞑想、自然療法等に首をつっこむ。その都度素晴らしい指導者に出会いながら、長続きせず、あきつばい奴とレッテルを貼られ、自分でも本当だなと思つたものです。

30年程前、大倭の法主様にお会いした時、私に

取り憑いているはずのもののお祓いをお願いしました。法主様はつくづくと私を見て、「あなたには何も憑いておらんあ」とおっしゃったのです。44歳で新体道に出会う。九十九里浜での合宿、

それは異様な光景でした。白装束(空手着)の老若男女がアーと奇声をあげ両手を開き天に向かって走る! 走る! かと思うと組んづほぐれつ砂にまみれて転げ回る。またはマリのようにジャンプを続け、はたまた骨も肉も溶けたかのようにグニャグニャ動き回る(わかめ体操、光と戯れる)。稽古の間中、歓声、笑い声、波の音が絶えない。

最終日、砂浜で青木宏之先生を囲んで話を聞く。と何が起きたのか? 見ると先生は一人の若者が膝の下に組み込んでいる……。他の武道の稽古人が先生を試そうと襲つたのでした。アツという間もない出来事。初めて知る武道の氣の世界でした。私は稽古をし続け、毎回芯からの汗をぐっしょりかく。大きな声を出して笑つて3年程して体が変わり心が安定してきたのを感じました。新体道の思想「天地人々我一体」は心のより所になる。

60歳を過ぎて、私は新体道の柔らかな部門、養氣体に稽古を替え、同時に太極拳をはじめました。今は推手を主に練習している。力を抜いて相手に触れる。邪念が入るや相手と衝突する。飛ばされる。それは新体道と一緒。力を抜けば相手の勁、氣が聴こえる。力を抜けば四方の氣と一体になり、一点の氣の乱れをも感知して、例えば自分を襲ってくる者をゆつたりとかわす。最近推手の先生は、氣楽にやりなさい、生活も氣楽に、と言われます。氣楽……氣を楽しむことだと思いました。天の氣、自然の氣、社会の氣、友人仲間の氣、自分の五感の氣、を楽しみ、全ての氣に「ありがとう」を言う。そうすれば「元氣」の氣に導かれていく、と今私は信じています。

寸 莎

第116回

劉 成 道 さん



境界を和す

2013年2月鶴橋。「南京大虐殺ではなく鶴橋大虐殺を実行しますよ！」大人に煽られながら少女がマイクで叫ぶ。近年稀に見る罵詈雑言を撒き散らしながらのヘイトスピーチ(差別煽動)デモだ。どれだけの在日コリアンが傷ついていたか。

「差別発言を言わせてはならない」。対抗するカウンターと呼ばれる人達と共に成道さんも街頭に立つたことは何度かある。しかし、「攻撃を受けたら正当防衛もいた仕方ないけれど、それだけでは解決しない。KEYYでは冷静なものを見られるよう教育を大事にしています。長い目で歴史をとらえた時に、僕らの考え方の方は合っているのか間違っているのか。それから、共に学ぶことを大切に、ヘイトスピーチに傷つく仲間がいれば、はげましたりします」。

そう語る劉成道さんは大阪出身、

FIWC関西委員会OBの35歳。貿易商社で働くと共に朝鮮半島にルーツをもつ30代までの青年で運営するNGO「KEYY(在日コリアン青年連合)」の共同代表をしている。

KEYYとは在日コリアン青年の出会いと学び合いの場。「国家から距離をおいて、自分の目で見、自分の価値基準に依拠して、自分達の手弁当で市民として社会活動や情報発信をしていく運営の仕方は、FIWCとの共通性だと思えます」という。背筋がすっと伸び静かに微笑む成道さんは、80年に梅田で生れ、堺、

門真と引越し、大学を卒業するまで此花区で育った。幼稚園の時に通称名(日本名)から韓国名(日本語読み)を使い始め、小学校に入学してからは人権意識の高い日本人の先生達に恵まれ、民族クラブや朝鮮語クラブでハングル表記の名前を教えて

もらい、名札や答案用紙など校内で使用する名前は全てハングルに変えた。「活発で、生徒会や学校行事にも積極的に参加し、ハングルも使うことで目立てると思うくらいです。批判する人もいなくて、日本社会にいながら民族性を保ちつつ生きていけるいい環境で育ったと思います」

関西大学第一中学校(中高一貫)に入学。自意識が芽生え始める思春期に入ると、名前もハングルは使わず漢字表記にし、極力目立つことは避けた。喋ることが恐くなり友人もできなかつた。「小学校では勉強もそれなりにでき野球もレギュラー、目に見えて自己実現が実感できる環境でしたが、中高は男子ばかりで偏差値も同じレベルの均一的な空間で、いじめの現場も見ている。野球はベンチ入りがやっとでしたが苦痛を忘れられる唯一の救いでした」

大阪外国語大学朝鮮語学科に入学。先輩の紹介でFIWCとKEYYに出会い、自分を変える転機となる。

1年の夏休み、FIWCの日韓合同韓国ワークキャンプに参加。「ハンセン病については全く知りませんでした。費用も安くて韓国の学生とも交流できる。自分を変えたい」とそんな思いでの参加だった。キャンプでは新鮮な苦痛を感じたという。「野球は緊迫した競争社会

で上の指令を忠実に守り言われたことをやる。誰かによって作られた環境で、必要な物も元々用意されている。それに比べてFIWCでは男女が参加し、誰も指示しないのでどうしていいのかわからない。物もないので自らの手で作るころから始めた。

一人ひとりが社会を作っていることを知らず、言われるままにやってきた自分が歯痒かった。自分は自分で変えないといけないことを知った」02年8月から約1年間ソウルに留学。語学堂に3カ月だけ通い、後は考試院という所に畳2畳の部屋を借り、日本語を教えるアルバイトで月5万円を稼ぎながら生活を切り詰めて韓国語を独学した。「言葉の背後に流れている韓国の文化をもっと知りたい！」意欲新たに帰国した。貿易商社に就職。現在は主に韓国でつくった葉の原料を日本の製薬会社に卸したり、日韓間の電子デバイス商品の取引をしている。

今後は、「どういう社会環境で生きていくとしても、人の成長に寄与することにこだわっていききたい。本音の部分は安心できる空間や関係があるから出せると思う。それをちゃんと聞いて、どういう風に表現できるのか、一緒に考え形作っていくことを常日頃からやっていきたいと思っています」。(聞き手 李章根)

あじさい日誌

10月11日 大倭町自治会主催秋のバス旅行で熱田神宮・トヨタ産業技術記念館・ノリタケの森を訪ねました。

午後、大倭会主催の祝会。

10月15日 大倭神宮月次祭。

10月17日 午後、交流の家でF IWC定例委員会。この日発行の『むすび便り』は「鶴見先生ありがとう」の特集号でした。

交流の家建設運動50周年の2013年、療養中の先生から「ハンセン病回復者の家をつくる運動は、皆さんの力を得て、私の生涯でもっともすばらしい案件でした。おそらく戦後の学生運動のなかでもっとも重要な運動ではなかったか」とカンパを添えてメッセージがあったという。

10月20日 奈良市教育委員会埋蔵文化財調査センターの鐘方正樹・池田裕英氏他1名が、法主さんの学生時代から集めてこられた考古遺物類の調査に来られました。

10月23日 大倭大本宮月次祭。この日は平成5年10月23日月次祭法話をCDで聞きました。

〔平成22年10月号『おおやまと』に「社会福祉を宗教から考える」として掲載分〕
10月25・26日 第328回大倭会文化行事で、紀州の自然と現界・霊界の人々を訪ねる旅をし

ました。(次号で報告記事)
10月30日 昭和22年、大倭紫陽花誕生記念日です。そのため「大倭大本宮伝承の紀」の連載をこの時期にしました。

午後2時から大倭病院の平成27年度上半期の決算会議。

11月1〜3日 大倭会館で、「あじさいの箱」の習字教室作品展とミニバザーが催され、来場者は100名を超えました。



11月6日 朝、大倭神宮掃除中に突然アメリカ人女性のアントワネット・ロマンフさんと上田裕子さん(奈良県桜井市)が来られ見田暎子さんに説明をうけた後、午後2時からの祭典にも参加されました。

11月8日 吉野郡川上村の辻谷達雄氏を講師に迎え、大倭会主催文化講演会「山の自然とともに生きて」。(次号で報告記事) 杉本順一さんの話…折しも夜のNHKスペシャルで「縄文・巨

大遺跡の謎」を見た。二つの話の底流に共通するものを感じ、うれしい一日でした。

11月10日 午後、ロマンフさんと上田裕子・山田緑(京都市)さんが来邑。教長さんも来られ教務本庁で歓談の後、大倭墓地の生母さんのお墓と法主さんの奥津城にご挨拶されました。

大倭安宿宛では(菅原園)
10月11日 菅原農園で育てたサツマイモを住苑者と一緒に掘り、29日にスイートポテトや焼き芋にしました。

(須加宮寮)
10月29日 運動会。輪投げ・パ

ン食い競争・玉入れ等、紅組・白組で対抗戦をしました。(長曾根寮)
10月15日(特養) 5名の方の誕生会をお祝い(内米寿1名)。(テ1) 10月17日にハーモニカ、22日に曲に合わせて運動、26日にギター等、ボランティアの方々が来てくれました。

(茂毛路園)
10月31日 ハロウィンで職員がデイズニーのキャラクターに仮装しました。(八重垣園)
10月7日 今月から将棋・オセロ・トランプ等のゲームクラブを始めました。

日聖祭のご案内

平成27年 12月23日(祝)

大倭七十二年 元旦
法主日聖師の御誕生を記念する祭典

○午前10時、法主様の奥津城に参拝。

午前10時30分より大倭大本宮拝殿において日聖祭がとり行われます。

○午後1時より、大倭会館で祝賀の会が催されます。

直会弁当を頂きながら、直会演芸会として、隠し芸など披露して頂ける方を募っています。楽しいひと時を共にすごしましょう。

◆12月15日まで受け付けています。
◆演芸会担当 中島武宣・青山法義(大倭印刷内)

TEL 〇七四一-四四一〇〇一 番
FAX 〇七四一-四四一〇九二 番



あんない

*金鶏祭(大倭神宮)
12月4日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

金鶏祭については、平成26年7・8月号の法主様遺稿「大倭神宮伝承の紀」等を読み、改めて「和の光」の心を自分のものとしたいものです。

*月次祭(大倭神宮)
12月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第563回祝会
12月13日(日) 午前9時より恒例「掃除みそぎ」として、大倭紫陽花邑境内の大掃除です。

これに先立ち8時より大倭墓地の大掃除が行われます。

*月次祭(大倭神宮)
12月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

*日聖祭(大本宮拝殿)及び直会演芸会
12月23日(祝)
大倭元旦。

上の「ご案内」をご覧ください。

*大倭神宮境内・周辺大掃除
12月27日(日) 午前10時より。有志の皆さんはご参加下さい。昼食はお弁当が用意されます。